

て半羊銀を賣ると銀銀するも彼の坐せるをを見 繩をもて鞭をつくり彼等及び羊牛を鞭より逐出し充銀する者の金を散じ其案を倒し 鶴を賣者に日ける此物を取て往わが父の室を賣易の家とする勿れ 弟子等も各の室の爲に熱心わかれを蝕んと録されたるを憶起せり 此にエグザヤ人て入てイエスに日ける 爾これららの事を爲からに我儕に何の休徵を示るや イエス答て爾曹の脚を擧て我三日にて之を建んといひければ エグザヤ人ひひける此脚を建るに四十六年を経じに爾三日にて之を建るか イエスの如此いへるの身脚を指るなり 死より甦り給へる後弟子たちもイエスの此事を語りて憶起し聖書と彼の曰し言を信せり 僂イエス逾越節にエムルサレムに在じに多の人かれの行い休徵を見て其名を信せり イエス自己を彼等に托す蓋すべての人を知 去た人の心の中を知らず故に人について語を立る者を求ざれば也

エグザヤ人の掌にてパリサイのニコデモと云る人あり かれ夜イエスに來て日けるハラヒ我儕ならんが神より來り來りし神なりと知うの神もし人並儕ならずば爾が行するこの休徵いへる人これを行て能ざれば也 三 イエス答て日ける誠實に爾に告ん人もし新に生ずる神の國を見ても能はば 四 ニコデモ彼に日ける 人はや老ぬれば如何で復生する事を得んや再び母の腹に入て生る可んや イエス答ける誠實に爾に告ん人ハ水と靈とに由て生ざれば神の國に入ても能ざる也 肉に由て生る者肉なり靈に由て生る者ハ靈なり 我れんがに新に生るべき事を言ひを奇と爲す可かれ 廣ハ己が任に欺んたが其體を開ざらる者ハ靈なり來り何處へ往て知す凡て靈に由て生る者も此の如し 五 ニコデモ答て如何で此事あらん乎と日く イエス答て日けるエラエルの脚なるに擧ての事を知ざる手誠實に爾に告ん我儕知し事を

ルキ 三章九節
ヨハ 三章二節
ヨハ 三章三節
ヨハ 三章四節
ヨハ 三章五節
ヨハ 三章六節
ヨハ 三章七節
ヨハ 三章八節
ヨハ 三章九節
ヨハ 三章十節
ヨハ 三章十一節
ヨハ 三章十二節
ヨハ 三章十三節
ヨハ 三章十四節
ヨハ 三章十五節
ヨハ 三章十六節
ヨハ 三章十七節
ヨハ 三章十八節
ヨハ 三章十九節
ヨハ 三章二十節
ヨハ 三章二十一節
ヨハ 三章二十二節
ヨハ 三章二十三節
ヨハ 三章二十四節
ヨハ 三章二十五節
ヨハ 三章二十六節
ヨハ 三章二十七節
ヨハ 三章二十八節
ヨハ 三章二十九節
ヨハ 三章三十節
ヨハ 三章三十一節
ヨハ 三章三十二節
ヨハ 三章三十三節
ヨハ 三章三十四節
ヨハ 三章三十五節
ヨハ 三章三十六節
ヨハ 三章三十七節
ヨハ 三章三十八節
ヨハ 三章三十九節
ヨハ 三章四十節
ヨハ 三章四十一節
ヨハ 三章四十二節
ヨハ 三章四十三節
ヨハ 三章四十四節
ヨハ 三章四十五節
ヨハ 三章四十六節
ヨハ 三章四十七節
ヨハ 三章四十八節
ヨハ 三章四十九節
ヨハ 三章五十節
ヨハ 三章五十一節
ヨハ 三章五十二節
ヨハ 三章五十三節
ヨハ 三章五十四節
ヨハ 三章五十五節
ヨハ 三章五十六節
ヨハ 三章五十七節
ヨハ 三章五十八節
ヨハ 三章五十九節
ヨハ 三章六十節
ヨハ 三章六十一節
ヨハ 三章六十二節
ヨハ 三章六十三節
ヨハ 三章六十四節
ヨハ 三章六十五節
ヨハ 三章六十六節
ヨハ 三章六十七節
ヨハ 三章六十八節
ヨハ 三章六十九節
ヨハ 三章七十節
ヨハ 三章七十一節
ヨハ 三章七十二節
ヨハ 三章七十三節
ヨハ 三章七十四節
ヨハ 三章七十五節
ヨハ 三章七十六節
ヨハ 三章七十七節
ヨハ 三章七十八節
ヨハ 三章七十九節
ヨハ 三章八十節
ヨハ 三章八十一節
ヨハ 三章八十二節
ヨハ 三章八十三節
ヨハ 三章八十四節
ヨハ 三章八十五節
ヨハ 三章八十六節
ヨハ 三章八十七節
ヨハ 三章八十八節
ヨハ 三章八十九節
ヨハ 三章九十節
ヨハ 三章九十一節
ヨハ 三章九十二節
ヨハ 三章九十三節
ヨハ 三章九十四節
ヨハ 三章九十五節
ヨハ 三章九十六節
ヨハ 三章九十七節
ヨハ 三章九十八節
ヨハ 三章九十九節
ヨハ 三章百節

いひ見し事を證するに爾ハ我儕の證を受す者れ地の事を言に爾儕言まば況て天の事を言に何ぞ信するべきを爲んや 天より降り天に在る人の子の外に天に升じ者なし 六 一七 野に蛇を擧じ如く人の子も擧がるべし 凡て之を信する者に亡るべし 永く生を受しめんが爲なり 九 神の其子を世に遣し給へるに非ず彼に由て世を救んが爲なり 彼を信する者ハ罪に定られず信せざる者ハ既に其罪さだまされ 靈神の生たせ入る獅子の名を信せざるに因罪の定る所以ハ光世に臨じに人の子の惡因て光を愛せず反て暗を愛すれば也 凡て惡をなす者ハ光を惡み其行を買られざる爲光に就らず 眞理を行ふ者ハ其行の顯れんが爲光を敬る靈神も導て行へん也 一〇 此後イエス弟子とエグザヤの地に至り借に彼處を留りてバプタスマを施す 一ヨハ 三章二節に近キアインムに在てバプタスマを施す彼處ハ水おほきが故なり人々來りてバプタスマを受たり 此時ヨハナ未だ獄に入られざりき 一ヨハ 三章の弟子とエグザヤ人と擧事就て爭辨ありけるが 彼等ヨハナ來りて日けるハラヒ爾と爾と借にヨハナの外に在て爾が證せし者バプタスマを施すに皆かれお來れり 一ヨハ 三章一節に答て日けるハ人ハ天より賜ふも非ざれば受て能ざる也 我ハキリストに非ず惟の先に遣されし者なりと言し事を證する者ハ爾曹なり 新婦をもてる者ハ新郎なり 新郎の友たたらて其聲を開べ之を縁て喜び多し我の喜ぶ満ることを得たり 彼ハ必ず盛んおなり我ハ必ず衰ふべし 一三 天より來る者ハ實物の上にあり地より出る者ハ地も屬するの言とて地の事なり 天より來る者ハ萬物の上を在 一四 彼の自ら其見しとて聞し所の事を語り爲に其語を受る者なし 一五 一の證を受し者ハ印をもて神の眞なる事を證す

ヨハ 三章一節
ヨハ 三章二節
ヨハ 三章三節
ヨハ 三章四節
ヨハ 三章五節
ヨハ 三章六節
ヨハ 三章七節
ヨハ 三章八節
ヨハ 三章九節
ヨハ 三章十節
ヨハ 三章十一節
ヨハ 三章十二節
ヨハ 三章十三節
ヨハ 三章十四節
ヨハ 三章十五節
ヨハ 三章十六節
ヨハ 三章十七節
ヨハ 三章十八節
ヨハ 三章十九節
ヨハ 三章二十節
ヨハ 三章二十一節
ヨハ 三章二十二節
ヨハ 三章二十三節
ヨハ 三章二十四節
ヨハ 三章二十五節
ヨハ 三章二十六節
ヨハ 三章二十七節
ヨハ 三章二十八節
ヨハ 三章二十九節
ヨハ 三章三十節
ヨハ 三章三十一節
ヨハ 三章三十二節
ヨハ 三章三十三節
ヨハ 三章三十四節
ヨハ 三章三十五節
ヨハ 三章三十六節
ヨハ 三章三十七節
ヨハ 三章三十八節
ヨハ 三章三十九節
ヨハ 三章四十節
ヨハ 三章四十一節
ヨハ 三章四十二節
ヨハ 三章四十三節
ヨハ 三章四十四節
ヨハ 三章四十五節
ヨハ 三章四十六節
ヨハ 三章四十七節
ヨハ 三章四十八節
ヨハ 三章四十九節
ヨハ 三章五十節
ヨハ 三章五十一節
ヨハ 三章五十二節
ヨハ 三章五十三節
ヨハ 三章五十四節
ヨハ 三章五十五節
ヨハ 三章五十六節
ヨハ 三章五十七節
ヨハ 三章五十八節
ヨハ 三章五十九節
ヨハ 三章六十節
ヨハ 三章六十一節
ヨハ 三章六十二節
ヨハ 三章六十三節
ヨハ 三章六十四節
ヨハ 三章六十五節
ヨハ 三章六十六節
ヨハ 三章六十七節
ヨハ 三章六十八節
ヨハ 三章六十九節
ヨハ 三章七十節
ヨハ 三章七十一節
ヨハ 三章七十二節
ヨハ 三章七十三節
ヨハ 三章七十四節
ヨハ 三章七十五節
ヨハ 三章七十六節
ヨハ 三章七十七節
ヨハ 三章七十八節
ヨハ 三章七十九節
ヨハ 三章八十節
ヨハ 三章八十一節
ヨハ 三章八十二節
ヨハ 三章八十三節
ヨハ 三章八十四節
ヨハ 三章八十五節
ヨハ 三章八十六節
ヨハ 三章八十七節
ヨハ 三章八十八節
ヨハ 三章八十九節
ヨハ 三章九十節
ヨハ 三章九十一節
ヨハ 三章九十二節
ヨハ 三章九十三節
ヨハ 三章九十四節
ヨハ 三章九十五節
ヨハ 三章九十六節
ヨハ 三章九十七節
ヨハ 三章九十八節
ヨハ 三章九十九節
ヨハ 三章百節

す神の遣はし者ハ神の言を語る善神これに働を賜ひて限量なけれ也父ハ子を愛して萬物を其手か
 授けたり子を信する者ハ父なる者に從はざる者ハ生命を見てもを得じ且神の怒ろの上に留り

主ハこの弟子を收ることも又バツラヌを起せることもハ主より多しとパリサイ人の聞し
 を知然其實ハイエス自らバツラヌを施せるに非ず弟子これを行るなり其時ヨハヤを去て復カリ
 ラヤに往サマリヤを經ずして行くと能はず遂ホサマリヤのアカルと云る邑に至れり此邑ハヤコブの
 子ヨセフに子し地を近し此にヤコブの非ありイエス行途の疲倦にて其井の傍に坐せり時ハ晝の十二時
 ごろなりき一人のサマリヤの婦水を汲んとて來りければイエスの婦も向て我に飲せよと曰蓋弟子
 たち食物を買んため邑に往て在ざりし故なりサマリヤの婦いひけるハ爾ハニダヤ人おして何サマ
 リヤの婦なる我も飲とを求るや此ハニダヤ人トサマリヤの婦人答へて曰く
 爾も神の賜と我も飲せよといふ者の誰なるを知バ爾われに求めん然バ活水を爾に与ふべし婦人
 エラに曰けるハ主よ汲器なく非も亦深し爾何處より汲て其活水を有るかこの井ハ我儕の先祖ヤコブの
 子し所なり彼も其子も亦亦皆これを取たり爾ハ彼よりも勝れし者ならん乎イエス答て曰けるハ
 凡て此水を飲者ハまた渴ん然我我わたりふる水を飲者ハ永遠かわく事なし且わが守ふる水ハ其中かて泉
 となり湧出て永生に至るべし婦いひけるハ主よ我が渴とどなく亦この處の水を汲に來らぬ爲ろの水を
 我に与へよイエス曰けるハ爾ゆきて夫を呼來れ婦とたてて曰けるハ我に夫なしイエス曰けるハ夫な
 しと言へり理なり蓋女も其父の夫ありて今ある者ハ爾の夫も非ず爾の言しハ真なり婦いひけ

イ創三二章六
 二創三二章六
 三創三二章六
 四創三二章六
 五創三二章六
 六創三二章六
 七創三二章六
 八創三二章六
 九創三二章六
 十創三二章六
 十一創三二章六
 十二創三二章六
 十三創三二章六
 十四創三二章六
 十五創三二章六
 十六創三二章六
 十七創三二章六
 十八創三二章六
 十九創三二章六
 二十創三二章六
 二十一創三二章六
 二十二創三二章六
 二十三創三二章六
 二十四創三二章六
 二十五創三二章六
 二十六創三二章六
 二十七創三二章六
 二十八創三二章六
 二十九創三二章六
 三十創三二章六

るハ主よ我なんぢを預言者ぞ知り我儕の死罪ハ此出にて拜しよに爾曹の拜すべき所ハエルサレムなり
 と曰くイエス曰けるハ婦よ我を信せよ唯此出のみに非ず亦エルサレム而已も非ず且爾曹父を拜す
 べき所きたらん爾曹の拜する者を爾曹ハ知す我儕の拜する者ハ知らぬニダヤ人より出るが
 故なり眞の拜する者眞を以て父を拜する時きたらん今この時ホナれり夫父ハ是の如く拜する者
 を認め給ふ神ハ眞を拜する者もまた眞をもて之を拜すべき也婦いひけるハキリストと稱する
 ツヤの來らん事を知かれ來らん時凡の事を我儕に告んイエス曰けるハ爾と語る所の我ハ其なり時
 に弟子きたりて彼の婦と語れるを奇みけれと其何を求るや又な不故これと語れるか問る者も無りき
 うの水瓶を遣して邑もゆき人々も曰けるハ我すべて行し事を我に告し人を來りて觀よ此ハキリストナ
 る乎乎是に於て人々邑を出てイエスの所に來るるの間ハ弟子かれに請てラ食し給へと曰けれバ
 イエス彼等に曰けるハ我に爾曹の知ざる食物あり弟子たつみに曰けるハ食物を彼に饋し者ハ誰なる乎
 イエス彼等に曰けるハ我を遣しし者の旨に遵ひ其工を成畢る是わが糧なりなんぢら糧時なるにハ
 糧四ヶ月ありと云ずや我なんぢらに告ん目を學て觀よはや田ハ熟て糧期になれり種者ハ其工錢を受
 て永生に至るべき實を積ひ斯て播者と種者と共に喜ん彼ら播之れハ獲と云るハ之に感て眞なり
 我なんぢららの勞せざりし所を獲せんとて爾曹を遣せり他の人々勞せしにより爾曹ハ其勞したる果を受
 たりかか焼わが行し凡の事を彼れわ告しと證せし言に因て其邑のサマリヤ人おほくイエスを信せり
 是に於てサマリヤの人イエスの所に來りて偕に留り給はん事を求しかバイエス此に二日留れり彼の
 言に因て信せし者前よりも多かりきかれら婦も曰けるハ今なんぢの言し事に因て信するに非ず我儕も

イ創三二章六
 二創三二章六
 三創三二章六
 四創三二章六
 五創三二章六
 六創三二章六
 七創三二章六
 八創三二章六
 九創三二章六
 十創三二章六
 十一創三二章六
 十二創三二章六
 十三創三二章六
 十四創三二章六
 十五創三二章六
 十六創三二章六
 十七創三二章六
 十八創三二章六
 十九創三二章六
 二十創三二章六
 二十一創三二章六
 二十二創三二章六
 二十三創三二章六
 二十四創三二章六
 二十五創三二章六
 二十六創三二章六
 二十七創三二章六
 二十八創三二章六
 二十九創三二章六
 三十創三二章六

づから聞て此に誠にして世の救主となられた地也。○二日すきてイエスを去るが、ついでに、蓋され自ら預言者ハ本土にて憂念する事なると言ひに因り、ガリラヤにお至りし時、ガリラヤ人々を援けたり。蓋さきき小節の時、イエスのエルサレムにて行ひし事、彼等もこの節に往て之を見られた地也。イエス復ガリラヤのカナに至る此に、水に酒を爲し、處なり。時に王の大郎の子病に係て、カネサツに在りければ、イエスよりガリラヤに來れる事をきき、即ちイエスの所へ行て、カネサツに下り、其子を醫し、癒之んことを請ひたり。病死なりければ也。イエス彼に曰ける、ハ爾曹、休微と異能を見ず、ハ信せしめ、曰ける、主よ、我子の死する先に下り給へ。イエス曰ける、ハ往か、乃ち其ハ、イエスの曰し言を信じて去ぬ。下る所、ハ僕等かれに遇て告げける、ハ爾の子ハ生る、亦、彼等の癒をせしめし時、彼等に問はれ、ハ答て、昨日の晝の一時に熱ざめたりと曰、父ハ、イエスの爾が子ハ生る也と言ひし時、其時同きことを知て、已て其全家ことごとく、皆信ぜり。この第二の奇跡ハ、イエス、コザヤよりガリラヤにお至り行るなり。

爾後、コザヤ人の節、筵ありければ、ハ、イエス、エルサレムに上り、エルサレムの羊門の邊に、ベテラの言にて、ハ、エズ、と云ふ池あり、此池に五の廊あり、その中、病者、數者、また、衰たる者、多し、臥して水の動を得たり。ハ、天の使、時々、池に下て、水を動すことあり、水の動ると、先ち、池に入り、若し何の病によらず癒たり。二十八年、病たる者、一人かして、在り。イエス彼の病を見、其病の久を知て、れ、曰ける、ハ、癒んことを欲ふや、病者、者、て、たへける、主よ、水の動ると、き、我を、池に入る人、な、し、我いらん、と、する、時、ハ、他の人、く、だりて、我より、先に入、ハ、イエス、彼に、曰ける、ハ、起、よ、床を、取、取、て、行、行、め、ろ、の、人、立、刻、に、愈、す、な、と、床を、取、取、て、行、行、め、此、日、ハ、安、息、日、ナ、リ、キ、コザヤ、人、の、之、し、者、に、曰、曰、ける、ハ、今日、ハ、安、息、日、ナ、キ、ハ、爾、床、を、取、取、り、宜、か

らざ、彼等に答けるハ、我を癒し者、われは床を取取て行、め、言ひ、し、者、の、誰、なる、ぞ、乎、癒、し、者、の、誰、なる、を、知、り、き、蓋、か、し、こ、の、多、の、人、を、し、故、ハ、イエス、選、た、れ、バ、也、
後、ハ、イエス、願、て、其、人、に、遇、い、ひ、け、る、ハ、祝、し、爾、す、で、に、愈、た、り、復、罪、を、犯、て、不、勿、れ、恐、る、ハ、前、も、勝、つ、災、禍、な、ん、だ、に、
懼、ん、其、人、ゆ、き、て、コザヤ、人、に、己、を、癒、し、者、ハ、イエス、ナ、リ、と、告、是、を、於、て、コザヤ、人、ハ、イエス、を、察、迫、て、殺、さ、ん、と、謀、る、蓋、が、れ、が、此、事、を、行、し、ハ、安、息、日、ナ、リ、け、レ、バ、也、
ハ、イエス、彼、等、に、答、け、る、ハ、我、父、ハ、今、に、至、る、ま、で、働、き、給、ふ、我、も、ま、だ、働、く、な、り、此、に、因、て、コザヤ、人、の、一、ハ、イエス、を、殺、さん、と、謀、る、ハ、安、息、日、を、犯、す、の、み、な、ら、ず、神、を、己、が、父、と、い、ひ、己、を、神、と、齊、す、れ、バ、ナ、リ、是、故、に、ハ、イエス、彼、等、に、答、て、曰、け、る、ハ、誠、本、實、に、爾、曹、お、告、ぐ、ん、ハ、父、の、行、入、事、を、見、て、行、入、の、外、ハ、何、事、を、も、行、入、こ、と、能、す、蓋、す、て、父、の、行、入、事、を、子、も、亦、行、入、ベ、ナ、リ、父、ハ、子、を、愛、し、凡、て、己、の、行、入、事、の、事、を、彼、に、亦、す、爾、曹、を、し、て、奇、を、し、め、ん、爲、に、か、の、事、等、よ、り、更、に、大、あ、る、事、を、彼、に、亦、さ、ん、ろ、父、の、死、し、者、を、慰、ら、せ、て、生、じ、し、む、る、が、如、く、子、も、己、の、意、に、從、ひ、て、人、を、生、じ、し、む、べ、し、ろ、れ、父、ハ、誰、を、も、審、判、し、ハ、凡、て、子、に、委、た、り、最、上、の、人、を、し、て、父、を、敬、ぶ、如、く、子、も、父、を、敬、は、し、め、ん、が、爲、な、り、子、を、敬、は、さ、る、者、ハ、之、を、遺、し、父、敬、ぶ、と、す、誠、本、實、に、爾、曹、お、告、ぐ、ハ、我、言、を、き、り、我、を、遺、し、く、者、を、信、ず、る、者、ハ、永、生、を、有、か、つ、審、判、に、至、ら、ず、死、し、よ、り、生、か、ぬ、れ、り、誠、本、實、に、爾、曹、お、告、ぐ、ハ、死、し、者、神、の、子、の、聲、を、聞、き、來、ら、ん、今、の、時、お、あ、れ、り、之、を、聞、者、ハ、生、べ、し、ろ、れ、父、ハ、自、ら、生、を、有、り、其、如、く、子、に、も、賜、て、自、ら、生、を、有、た、せ、た、り、また、人、の、子、た、る、か、因、て、之、に、審、判、す、る、の、權、威、を、賜、へ、り、之、を、奇、と、爲、と、勿、ろ、ハ、墓、中、在、者、女、不、其、聲、を、聞、て、出、る、と、き、來、ん、と、す、れ、バ、也、善、事、を、行、し、者、ハ、生、を、得、お、ハ、惡、事、を、行、し、者、ハ、罪、を、得、お、ト、ス、我、何、事、を、も、自、ら、行、入、こ、と、能、す、聞、て、こ、ろ、乃、違、ひ、て、審、判、す、我、審、判、ハ、公、平、ろ、我、わ、か、ず、意、を、行、入、こ、と、を、求、め、我、を、遺、し、く、父、れ、意、を、行、入、こ、と、を、求、れ、バ、ナ、リ、も、

し我事を我みづから證せば我證ハ眞ならず 別ハ我事を證する者あり我ハ我事を證する證の眞なるを
知んたるらば人ハ手ヲ遣はし其眞理の爲ニ證を作り 然ルニわれ人ハ證を受ず此事を言ハ爾曹
比救れんが爲なり ヨハチハ燃て光れる燈なり爾曹之のみに對シ其光を賣リ 我ハヨハチより大なる
證あり蓋父の我に賜て成遂しむる事す亦之我行ハ所の事は父の我を遣はし其證を受くべしなり 且
われ遣はし父も我之を證せり爾曹のまだ其證を聞かず未だ其形を見ず 爾曹の心は存ざり
蓋かたなら其遣はし者信ぜざる小因て知る地 小なら聖書を永く生ありと意て之を探索之の聖書
ハ我について證する者なり 爾曹わが所に生を得んがため來るを欲す われ爾曹を
知んたるらば其心小神を愛するの愛あらざる也 我ハ吾父の名を賣て來し尔曹われを接するもし他ハ人
この名を賣て來バ爾曹これを接ハ 爾曹ハ互に人の祭を受て神より出る祭を來受る者なるも何で能信
するぞを得んや 爾曹を交ハ訊る者我を信せず勿レ爾曹を欺るもの一人あり即ち爾曹が信ぜざるのモ
トセなり 若モトセを信せば我を信せずト蓋モトセ我事を書ればなり 若モトセの書し言を信せず
ハ何で我言して之を信せんや

此後イエスがガリラヤの湖すさふまらチベリアの湖の前岸へ濟しに 許多の人々これら隨テ蓋かれ
が病し者も行きし體徴を見しが故あり イエスが山の上より弟子と偕も其處に坐せり 時ニガザヤ人の跳越の聲
が響し イエス目を擧げて多の人の來れるを見てヒリガバ曰けるハ何處より尔曹を市て彼等ハ食しむ可か
自ら其爲んとする事を知彼を試んが爲も如此のいへる也 ヒリガバ答けるハ銀二百のパンも人々にと少
うとすて亦は足ざるべし 弟子の一人即ちシモンベトロの兄弟フマテス曰けるハ 此ハ一人の

童子あり 餅麥のパン五と小き魚二を有リ 然るにこの請多の人如何すべき乎 イエス曰けるハ人々を坐せ
よ 其處も多の草あり 約う五千八はと坐ぬ イニパンをとり祝讀て弟子お手へ弟子これ而坐し人々予ム
又此の如くして小き魚をも人々の欲ハ隨ひて彼等も與たり 小魚飽たる後 イエス弟子曰けるハ少も廢
はざるやうに其餘の屑を拾集めよ 彼等が食せし餅五の餅麥のパンの篩遺の屑を拾集められ十二の籃も
盈リ 人々イエスの行し奇蹟を見て此ハ眞誠ハ世に隠るべき預言者なりと曰 是を以てイエス彼等が來り
已を執て王を爲んとするを知らず 獨れて之を遺ふたし び山入たり 日の暮るころ弟子揃て下りて舟
登リてナウツナウツカ向て海を渡る 爾曹喜ければ イエス彼等に就き 狂風くお因て漸々海おれいせり
一里十町ばかり漕出せる時 イエスの海を行み舟近くを見て弟子たち懼たり イエス曰けるハ我なり 懼
る勿れ 是に於て弟子喜びて彼をうけ舟に登り 彼直に其れんとする所の地も着ぬ 明日かわたの
海岸に立し人々昨日弟子の登り舟の外にハ舟なく且 イエスハ弟子と偕も舟も登す弟子のみ往るを知 此
時チベリアより舟の船きたり 主の御りて人々ハパンを食し 所の近も着り 人々イエスの此に在る弟子
も亦在ざるを見て 彼等も舟も登り イエスを尋ね 舟もカベナウツナウツカ至れり 湖の前岸へ彼を遣はし
ハニ何時てくお來り給ひし乎 イエス答て曰けるハ誠ハ爾曹も告ル爾曹の我を尋るハ體徴を見し
故も非た 爾曹を食して飽たるが故あり 亦かたら壞る糧の爲に弊かすして 永生お至る糧すなばち人
の子のする糧の爲に勞ぐべし 蓋父の神かれに印して證されん也 是に因て人々イエスに曰けるハ我備如
何ある事を行ハ神の工に爲べき乎 イエス答て彼等に曰けるハ神の遣はし者信するハ即ち其工あり
從等いひけるハ我備をして爾曹を信せしむる爲に何の體徴を爲して我備に equal 何れ工を行ふや 我備の

本五十四頁十三
五十八頁九
五十九頁六
六十一頁六
六十二頁三
六十三頁一
六十四頁一
六十五頁一
六十六頁一
六十七頁一
六十八頁一
六十九頁一
七十頁一
七十一頁一
七十二頁一
七十三頁一
七十四頁一
七十五頁一
七十六頁一
七十七頁一
七十八頁一
七十九頁一
八十頁一
八十一頁一
八十二頁一
八十三頁一
八十四頁一
八十五頁一
八十六頁一
八十七頁一
八十八頁一
八十九頁一
九十頁一
九十一頁一
九十二頁一
九十三頁一
九十四頁一
九十五頁一
九十六頁一
九十七頁一
九十八頁一
九十九頁一
百頁一

後等いひけるハ我備をして爾曹を信せしむる爲に何の體徴を爲して我備に equal 何れ工を行ふや 我備の
何ある事を行ハ神の工に爲べき乎 イエス答て彼等に曰けるハ神の遣はし者信するハ即ち其工あり
の子のする糧の爲に勞ぐべし 蓋父の神かれに印して證されん也 是に因て人々イエスに曰けるハ我備如
故も非た 爾曹を食して飽たるが故あり 亦かたら壞る糧の爲に弊かすして 永生お至る糧すなばち人
ハニ何時てくお來り給ひし乎 イエス答て曰けるハ誠ハ爾曹も告ル爾曹の我を尋るハ體徴を見し
も亦在ざるを見て 彼等も舟も登り イエスを尋ね 舟もカベナウツナウツカ至れり 湖の前岸へ彼を遣はし
時チベリアより舟の船きたり 主の御りて人々ハパンを食し 所の近も着り 人々イエスの此に在る弟子
も亦在ざるを見て 彼等も舟も登り イエスを尋ね 舟もカベナウツナウツカ至れり 湖の前岸へ彼を遣はし
ハニ何時てくお來り給ひし乎 イエス答て曰けるハ誠ハ爾曹も告ル爾曹の我を尋るハ體徴を見し
故も非た 爾曹を食して飽たるが故あり 亦かたら壞る糧の爲に弊かすして 永生お至る糧すなばち人
の子のする糧の爲に勞ぐべし 蓋父の神かれに印して證されん也 是に因て人々イエスに曰けるハ我備如
何ある事を行ハ神の工に爲べき乎 イエス答て彼等に曰けるハ神の遣はし者信するハ即ち其工あり
從等いひけるハ我備をして爾曹を信せしむる爲に何の體徴を爲して我備に equal 何れ工を行ふや 我備の

本五十四頁十三
五十八頁九
五十九頁六
六十一頁六
六十二頁三
六十三頁一
六十四頁一
六十五頁一
六十六頁一
六十七頁一
六十八頁一
六十九頁一
七十頁一
七十一頁一
七十二頁一
七十三頁一
七十四頁一
七十五頁一
七十六頁一
七十七頁一
七十八頁一
七十九頁一
八十頁一
八十一頁一
八十二頁一
八十三頁一
八十四頁一
八十五頁一
八十六頁一
八十七頁一
八十八頁一
八十九頁一
九十頁一
九十一頁一
九十二頁一
九十三頁一
九十四頁一
九十五頁一
九十六頁一
九十七頁一
九十八頁一
九十九頁一
百頁一

二節五〇一
三節五〇二
四節五〇三
五節五〇四
六節五〇五
七節五〇六
八節五〇七
九節五〇八
一〇節五〇九
一一節五一〇
一二節五一〇
一三節五一〇
一四節五一〇
一五節五一〇
一六節五一〇
一七節五一〇
一八節五一〇
一九節五一〇
二〇節五一〇
二一節五一〇
二二節五一〇
二三節五一〇
二四節五一〇
二五節五一〇
二六節五一〇
二七節五一〇
二八節五一〇
二九節五一〇
三〇節五一〇
三一節五一〇
三二節五一〇
三三節五一〇
三四節五一〇
三五節五一〇
三六節五一〇
三七節五一〇
三八節五一〇
三九節五一〇
四〇節五一〇
四一節五一〇
四二節五一〇
四三節五一〇
四四節五一〇
四五節五一〇
四六節五一〇
四七節五一〇
四八節五一〇
四九節五一〇
五〇節五一〇
五一節五一〇
五二節五一〇
五三節五一〇
五四節五一〇
五五節五一〇

て行はば、己を世に置けよ。是の兄弟もなほ彼を信せざるが故なり。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。世の爾曹を惡とせざるが故なり。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。至す爾曹の時、恒に備れり。世の爾曹を惡とせざるが故なり。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。爾曹との節、上れ我時たまはざれば、既に世に置けり。如此ひて、ガリラヤにお留れり。その兄弟の往後、イエスも昭然ならずして、隠れ節お上りて、節の時、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。衆多の中、彼につき各様のことを言争へり。或人は彼を善人なりといひ、或人は否民を讃す者なりと曰く、然るも、エズヤ人を憐れむが因、明彼の事をいふ人なし。○節鍵の半、イエスが答へて曰く、ガリラヤ人、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。エズヤ人、これを奇み曰ける、此人は未だ學ぶが如くして、書を識り、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。此府ニルサレムの或人ひひける、此の八々の殺んと謀る者に非ずや。今かれ明かといふ、而して之を光る者なし。有司等、ハ彼を前にキリストなりと知らん。然るに我儕ハ此人ハ何處より來しと知り、キリストの來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。受る時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。なるが故、余之に因、爾曹對禮を安息日に行ふ。人もしモーセの律法を破ざらんがため、安息日、お對禮をきに一事を行ひ、爾曹みな奇とせり。三、モーセ爾曹に對禮を授けし、其己より出し、非して先祖より出し、者や。衆人、たてて曰ける、爾曹に誰たり、誰か爾を殺すことを謀らん乎。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。者なし。有司等、ハ彼を前にキリストなりと知らん。然るに我儕ハ此人ハ何處より來しと知り、キリストの來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。

二節五〇一
三節五〇二
四節五〇三
五節五〇四
六節五〇五
七節五〇六
八節五〇七
九節五〇八
一〇節五〇九
一一節五一〇
一二節五一〇
一三節五一〇
一四節五一〇
一五節五一〇
一六節五一〇
一七節五一〇
一八節五一〇
一九節五一〇
二〇節五一〇
二一節五一〇
二二節五一〇
二三節五一〇
二四節五一〇
二五節五一〇
二六節五一〇
二七節五一〇
二八節五一〇
二九節五一〇
三〇節五一〇
三一節五一〇
三二節五一〇
三三節五一〇
三四節五一〇
三五節五一〇
三六節五一〇
三七節五一〇
三八節五一〇
三九節五一〇
四〇節五一〇
四一節五一〇
四二節五一〇
四三節五一〇
四四節五一〇
四五節五一〇
四六節五一〇
四七節五一〇
四八節五一〇
四九節五一〇
五〇節五一〇
五一節五一〇
五二節五一〇
五三節五一〇
五四節五一〇
五五節五一〇

を信せざるが故なり。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。爾曹との節、上れ我時たまはざれば、既に世に置けり。如此ひて、ガリラヤにお留れり。その兄弟の往後、イエスも昭然ならずして、隠れ節お上りて、節の時、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。衆多の中、彼につき各様のことを言争へり。或人は彼を善人なりといひ、或人は否民を讃す者なりと曰く、然るも、エズヤ人を憐れむが因、明彼の事をいふ人なし。○節鍵の半、イエスが答へて曰く、ガリラヤ人、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。エズヤ人、これを奇み曰ける、此人は未だ學ぶが如くして、書を識り、イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。此府ニルサレムの或人ひひける、此の八々の殺んと謀る者に非ずや。今かれ明かといふ、而して之を光る者なし。有司等、ハ彼を前にキリストなりと知らん。然るに我儕ハ此人ハ何處より來しと知り、キリストの來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。受る時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。なるが故、余之に因、爾曹對禮を安息日に行ふ。人もしモーセの律法を破ざらんがため、安息日、お對禮をきに一事を行ひ、爾曹みな奇とせり。三、モーセ爾曹に對禮を授けし、其己より出し、非して先祖より出し、者や。衆人、たてて曰ける、爾曹に誰たり、誰か爾を殺すことを謀らん乎。イエスが答へて曰ける、我問ひたまはざれば、既に世に置けり。來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。者なし。有司等、ハ彼を前にキリストなりと知らん。然るに我儕ハ此人ハ何處より來しと知り、キリストの來らぬ時、何ぞ我安息日に人の全身を愈し、事を怒るや。外親によりて是非を定るといふ、勿れ義をもて定よ。